

8

August
2003

印刷メディアを展望する
総合情報誌

印刷情報

〔特集〕

「アイディア」満載。
提案営業へ行こう

創意工夫で顧客確保と需要創出

—「光」「形」「香」「触」「機能」など個性的な製品群

特集：「アイデア」満載。提案営業へ行こう

めくって4面見える 「フラッパー」

印刷と加工が織り成す、 動きのある紙製品

●美創印刷

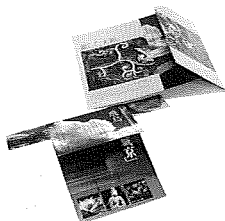


写真1: フラッパー

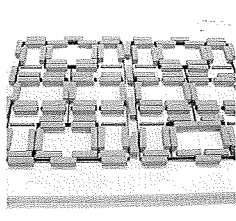


写真2: 2面付けのフラッパー用抜き型



写真3: フラッパーを展開したもの
これに折りと貼りの加工を施すとフラッパーになる。

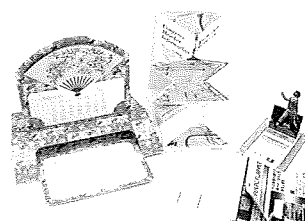


写真4: その他の紙加工品
手前が「貼合わせ葉書」の技術に応用した葉書型のフラッパー。奥の左から、ポップアップスタンド、フォールディングマップ、センターポップアップ。

たった1枚の紙から刷り・抜き・箔押し・エンボス・折りなど加工を施すことで、多面的な動きのある紙製品となる「フラッパー」——美創印刷株式会社(村上一宏社長、東京都調布市深大寺1-30-8)が製作しているもの。原理は簡単でも、設計の意図どおりに仕上げてスムーズに動くものにするためには、様々なノウハウが必要だ。フラッパーは米国のインタービジュアルコミュニケーションズ社(以下IVC)の特許。IVCは飛び出す絵本の製作などを行ってきた会社。村上社長は4年前にフラッパーの存在を知り、約1年の交渉の末に一定のロイヤリティーを支払って日本でフラッパーを製造するための契約を結ぶ。

美創印刷は商品パッケージの製作などを永年手がけており、印刷はもちろん、型抜きや箔押し、エンボス加工、折り・貼りの機材と職人が揃っている。が、実際にフラッパーを作ってはみたものの、最初の1年はほとんど仕事に結びつかなかった。一番のネックは通常の印刷物に比べて単価が高いことだが、米国での実績をもとに費用対効果が高いことなどを説得をつづけて徐々に顧客の理解を得ていった。やがて

他の印刷会社や用紙メーカーを通じて引き合いがくるようになり、販売代理店制に切り替えた。事業を始めてから3年経った現在までに出荷したフラッパーは、約200種類、総数3000万枚にのぼる。

<写真4>の右手前にあるのは葉書のフラッパーで、DMやプライバシーを考慮したお知らせに貼り合わせた葉書がよく使われているが、あの接着技術を利用したもの。2箇所をそっと剥がすとフラッパーになる。左はポップアップスタンドといい、これもIVCが特許を持つ。カードの肩を押し下げると、この写真のようにスタンドになる。スムーズに動いてしっかり固定されるようにするため、設計・製造に工夫がこらされている。これもやはり1枚の紙を加工して作られる。

また、中央奥はフォールディング・マップ。これは美創印刷の実用新案。見ての通りの製品だが、開くときの動きが美しい。右奥はIVCと美創印刷の共同開発になるセンター・ポップアップで、これから市場に投入しようというもの。平らな紙片の一部を引っ張るとこの写真のように起き上がるのだが、これが1枚の紙からできたとは想像しにくい。